

1	審議会名	丸子地域協議会
2	日 時	令和6年12月26日(木曜日) 午前10時から午前11時25分まで
3	会 場	丸子地域自治センター 4階 講堂
4	出席者	小林勉会長、宮下由紀副会長、阿部勇委員、伊藤勝廣委員、伊藤孝二委員 上野隆子委員、清水真季委員、清水正志委員、田中幸子委員、田村卓也委員 手塚博邦委員、中山康昭委員、二瓶由美委員、長谷屋淳一委員、柳沢裕美委員 吉池由美委員、吉村かつえ委員、割田栄二委員
5	市側出席者	中村丸子地域自治センター長、春原丸子地域自治センター次長兼地域振興課長 小林丸子地域振興政策幹兼丸子地域教育事務所長、山崎丸子市民サービス課長 宮下丸子産業観光課長補佐兼農林振興担当係長、坂口丸子学校給食センター所長 竹下丸子地域建設課長兼丸子地域農地整備事務所長、松崎丸子消防署長 久保田地域振興課長補佐兼地域政策担当係長、青木統括幹、中島主任、藤野主事 【上下水道局】宮島上下水道局長、関上下水道基盤強化対策室長、矢澤上下水道課長 堀内上下水道基盤強化対策室長補佐、矢ヶ崎丸子・武石上下水道課長
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 ・ 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和7年1月9日

1 開 会 (センター次長)

2 あいさつ (小林会長)

3 会議事項 (進行 小林会長)

(1) 上田市水道事業の今後のあり方について (上田長野地域水道事業広域化に関する検討報告)

【資料1】【資料2】【資料3】

・上下水道局より、上田長野地域水道事業広域化について説明した。

<質疑・応答>

(委 員) 【資料1】14 ページ「①補助金・出資金収入の増」について、内訳はどのくらいになるのか。

(担当課) 国の補助金を活用した事業費約 1,119 億円について【資料1】10 ページに掲載している。

この約 1,119 億円の 3 分の 1 (約 300 億円) が国の補助金、同じく 3 分の 1 (約 300 億円) が各自治体の一般会計からの出資金となる。この二つを合わせた約 607 億円を【資料1】14 ページ「①補助金・出資金収入の増」に掲載している。

(委 員) その内の、上田市の出資金等はどのくらいになるのか。

(担当課) 上田・長野間全体における出資金の割合等については詳細な協議がされていない。人口割や事業割など、考え方は様々あるが現時点では整理ができていない。

(委 員) ・現在は上下水道局の中で上水道も下水道も併せて管理している。広域化によって上水道だけを移管した場合、迅速な復旧や、下水道事業との整合性に支障を来すのではないかと。

・大事なライフラインである水道事業を他の団体で管理するのは危機管理の面から見て非常に心配。本来なら危険は分散するべきだが、広域化すると逆に統合される。また、広域化によって人件費が削減されて人数が減ると、水道行政の迅速さに欠けて問題が起きるのではないかと。

・災害を考えた時に今の上下水道局の体制であれば、担当課に加えて土木課等の手も借りて総合的なフォローが可能だと思う。しかし、他団体に移管してしまうとそういった連携が難しいし、市として単独で支出することも難しくなる。

・人材不足だと言うが、足りなければ育てれば良い。12 万人の大都市で人材を育成できないなんてありえない。取ってつけたような理由だと感じる。

・財政負担に関して、広域化によって交付金等があるとしても、小中学校の増改築や自治センターの改修等、上田市は財政支出をしてきている。さらに、ごみの処理場の問題がまとまれ

ば人口の多い上田市の拠出する額は大きくなるだろう。その中で、水道事業広域化が実現して拠出金等を出すことになれば、財政が硬直化し住民サービスにも影響が出るのではないか。

- (担当課) ・同じ上下水道局に属しているが、上水道と下水道は別々の担当であり、会計も別となっている。ただし、工事の際は一体的に発注していて、ガス工事と水道工事を一つの発注で行うような取り組みもしている。広域化による効率低下については今後考えていかななくてはならない。
- ・日本の人口推移を考えた時に、次の世代にとって大変厳しい社会になっていくことは避けて通れない。財政シミュレーションとして、【資料 1】13 ページ上段に供給単価（水道 1 m³あたりの販売価格）の推移について掲載しているが、どうしても値上げしなければ経営が成り立たない。次の世代の負担が軽減できるように、料金上昇の抑制を図ったり、施設等の更新を先送りしたりせず、今の世代で何とかしたいと考えている。
 - ・危機管理に関して、水道事業は大規模災害時には全国から動員をかける体制ができています。また、倒木でポンプ場の電線が切れてしまうなど、地域ごとの危機にはそれぞれで対応することになるが、上田・長野間の給水人口約 58 万人もの広域となればそれなりの体制がとれると考えている。危機管理と効率は両輪で考えなければならない。危機管理を重視すると経費がかかり、効率を重視すると危機管理が疎かになる。このバランスについても十分考える必要がある。
 - ・人材について、これからの人口減少社会において人材確保が難しくなってくるが、【資料 1】14 ページ上段に「人件費及び委託費の削減」と記載のとおり、事務員等の削減を検討している。ただし、専門人材等については、一定の人材確保をし続けることが必要となる。広域化すると新たな大きな組織として「企業団」となり、水道事業に特化した職員を直接採用することとなる。そうすると、事務方も技術方も異動がない職員体制ができる。
 - ・市の財政は大変厳しい状況にある。今後、資源循環型施設の建設等を含め、計画的に取り組んでいく。水道事業は住民の水道料金で成り立っている。市の一般会計による出資金や補助金等、水道料金の抑制に繋がるものは少しでも活用していきたい。

(委 員) 水道事業広域化の話はどこから出て来たのか。長野市や上田市か。それとも県か。

- (担当課) 【資料 1】8 ページのこれまでの経緯をご覧いただきたい。平成 21 年から平成 26 年まで、県営水道を長野市・千曲市・坂城町・上田市に分割できるかを研究する「移管分割検討会」が開催された。しかし、【資料 2】2 ページに記載のとおり、坂城町は 100 パーセント、千曲市は 87 パーセントが県営水道を給水している中で、それぞれの事業体への移管分割は難しいという結論となった。平成 21 年から平成 26 年までの 5 年間にわたり研究を続けてきたという経過のうえで、移管分割ではなくて共同的な事業ができないかを研究するため、平成 26 年に「水道事業運営研究会」が発足されたという経過となる。その後、県企業局・長野市・上田市・千曲市・坂城町が約 7 年間対等な立場で検討を重ねてきたうえで、令和 3 年に広域化も一つの手段ではないかと「上田長野地域水道事業広域化研究会」を設置した。あくまでも各構成団体と研究してきた結果として出てきた話となる。

(委 員) 水道事業広域化は県主導で進めているという話を耳にした。移管分割を断念して広域化の話に進んだという中で、当の県が水道事業団方式から手を引きたいというのが一番の趣旨だと感じている。水道事業広域化は非常に大事な問題。丸子地域協議会で出た意見が少しでも市の上層部に伝わってほしい。

- (担当課) 県の関わりについて、【資料 3】1 ページ「業務運営の基本方針」に「長野県、長野市、上田市、千曲市及び坂城町で構成する一部事務組合を設立し（中略）将来にわたって民営化によらず企業団により事業を運営していく」と記載のとおり、長野県は引き続き水道事業に参加していく。

(委 員) 災害、特に地震の場合、地下の送水管があちこちで破裂してしまう。国や県や他市町村から応援があるだろうが、そうした復旧の動きをする前が非常に問題。特に丸子地域の配管は相当古い。当時埋めた配管が鉄ならいいが、鉄ではない管をゴムと鉄のジョイントで繋げていることがある。そういうことを考えると、担当部署はなるべく近くに設置してすぐに対応できる体制をとることが一番基本だと思う。広域化すれば上田支所あるいは出張所ができると思うが、大きな組織になると簡単に動けなくなる。震災があった場合には小さな組織のほうが動きやすい。そのあたりをいかにカバーできるか、どのように上田市から提案するかが一番の問題だと思う。

(委員) 現在の水道料金はまだ安いという説明だったが、今後、子・孫世代が生活をしていくうえでより良いのはどちらなのか。広域化したほうが負担の少ない料金体制になるのか。親として心配だ。

(担当課) 現在、一般家庭では1ヶ月20㎡を標準として2900円ほど負担している。これが上田市単独で事業を展開した場合は約50年後に2.3倍になると試算されている。ただし、それは現在の物価で試算した場合であり、物価上昇等の影響を含んでいない。次世代の負担をいかに軽減するかということは皆で考えなければならない。すでに施設の効率化も含めて、絞り切ったうえでこうした数字が出てきている。サービスの質を守るために料金の値上げというのはどうしても避けられない。ぜひ次世代のための視点をもって考えていただきたい。

(委員) 広域化した場合、大規模災害時に丸子・武石の人口の少ないところは復旧作業が後回しになって断水期間が長くなるのではないかと心配だ。小さい市町村の修理の順番はどうなるのか。現在の市営水道のままであればすぐに修理が始まって断水期間も短くて済むと思う。

(担当課) イメージしている形は消防署に近い。各地域で運営していた消防署は広域連合に統合された。窓口を集約した場合にサービスの低下が懸念されているが、水道料金の窓口だけではなくて、通報を受けて出動できる職員が待機する窓口も含めて、十分配慮した形が必要になると考えている。また、水道事業の特性として同じレベルに合わせることが前提となる。市町村合併時、地域によって水質や水量にどうしても差があったが、お金をかけて同レベルのサービスを提供できるように対策した。水道事業にとってサービスの平準化は基本だと考えている。

(委員) やはり水道料金のことが気になる。できるだけ負担を抑えた料金設定にしていきたい。水質の問題もレベルを揃えていただきたい。

(委員) 今の上田市では上下水道一体で料金の請求をしている。【資料3】「5 その他の基本方針」に上田市・千曲市・長野市の三つの市は上下水道が一体の組織と記載されているが、広域化した後も続けていくということか。

(担当課) 現在、上田市の上下水道料金の請求は一つ。一方、県営水道は水道料金と下水料金は別々に請求している。請求の仕方について検討するが、基本的には別の組織である。請求は別々になるかもしれない。住民サービスの低下にならないように検討させていただく。

(担当課) もしも、各種団体で水道広域化について説明してほしいという話があればお声がけいただきたい。また、先ほどの料金請求方法について追加で申し上げたい。【資料1】15ページの上段に記載のとおり、料金徴収について「下水道事業から一元的な委託を受ける」ことも今後の検討課題として考えている。一つの料金請求で済むような形も考えていきたい。

(2) 「丸子雑排水汚泥処理場」施設廃止に係る諮問の答申(案)について
・事務局から、答申(案)について説明し、承認された。

【資料4】

<質疑・応答>
なし

4 その他

(1) 今後の協議会日程について

第10回 2月 6日(木) 午前10時 丸子地域自治センター 4階 講堂

第11回 3月 6日(木) 午前10時 丸子地域自治センター 4階 講堂

令和7年度第1回 4月 24日(木) 午前10時 丸子地域自治センター 4階 講堂

・丸子地域教育事務所より、丸子文化会館自主文化事業(舞台「おばあとラッパのサンマ裁判」について案内した。【チラシ】

5 閉会